

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	きらりホール主催事業の内容、実施時期、PR方法等を見直すとともに、事業の目的を、より効果的・効率的に達成するため、令和2年度からの指定管理者制度導入に向けて、指定管理者を募集・選定する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	引き続ききらりホール主催事業の内容やPR方法の見直し、指定管理者への指導が必要となるため、令和2年度以降は、「指定管理料」を計上している事務事業(「きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費」)で評価・検討を行う。
②①に基づく取組み結果	新規市民参加型公演を計画・実施し、新たな参加者やボランティアを獲得した一方、全体的な主催事業来場者数は減少した。また、指定管理者制度導入に向け、指定管理者の募集・選定を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	市民の芸術文化活動をサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民のニーズは高い。令和2年度からは指定管理者制度の導入により、民間業者のノウハウを活用した更なるサービス向上が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	新型コロナウイルス感染症に係る施設休館のため、来場者数及び貸館件数が減少したが、適切な管理・運営が行われた。(きらりホール入場者数は、事務事業「きらりホールの管理運営に要する経費」の成果を参照。)						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数	57,402	58,349	46,109	人	業務取得
	ii	主催事業来場者数	5,130	4,545	3,133	人	業務取得
	iii	貸館件数	174	189	164	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	44,050	46,344	金額(千円)	内容	0		
	国支出金(千円)		194	手数料			
	県支出金(千円)		5,028	報償費			
	市債その他(千円)	14,642	28,629	舞台保守管理委託			
	一般財源(千円)	29,408	46,344				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	きらりホール主催事業での来場者数の増加を図る。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	指定管理者制度を導入に伴い、予算が0円となるため「終了」となるが、来場者数を増加させるために、きらりホール主催事業の内容、実施時期、PR方法等見直ししていく必要があることから、令和2年度以降は「指定管理料」を計上している事務事業(「きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費」)で評価・検討を行う。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況	0	補正		0	現年分
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	避難訓練コンサートを継続して行うとともに、市民会館来場者の利便性を図るため、ロビーでWi-Fiが利用できるよう整備する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	市民会館の適切な管理運営を行う。指定管理者制度の導入により、民間業者のノウハウを活用した更なるサービス向上を図るため、指定管理者への適切な指導を行い、きらりホール主催事業の内容やPR方法の見直しを行う。
②①に基づく取組み結果	演奏者を公募して避難訓練コンサートを実施し、ショッピングプラザ鎌ヶ谷及び各センターと連携を図った。また、ロビーでWi-Fiが利用できるように整備した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	非常時などに備え連携を図りながら、各施設が円滑に運営されている。令和2年度からは、きらりホール及び中央公民館に指定管理者制度を導入することから、各センターやショッピングプラザ鎌ヶ谷との連携強化が必要となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	新型コロナウイルス感染症に係る施設休館のため、来場者数及び貸館件数が減少したが、適切な管理・運営が行われた。(きらりホール入場者数は、事務事業「きらりホールの管理運営に要する経費」の成果を参照。)						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 中央公民館		101,735	103,462	89,180	人	業務取得
	ii 多文化共生推進センター		2,383	2,494	2,176	人	業務取得
	iii 男女共同参画推進センター・市民活動推進センター		5,977	5,356	5,251	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	115,509	118,442	金額(千円)	内容		205,852	
国支出金(千円)			10,574	光熱水費			
県支出金(千円)			11,994	清掃委託			
市債その他(千円)			81,737	市民会館賃借料			
一般財源(千円)	115,509	118,442				205,852	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	令和2年度より、きらりホール及び中央公民館に指定管理者制度を導入することから、市民会館内の連携強化を図り、適切な管理運営を行う。また、きらりホール主催事業での来場者の増加を図る。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	指定管理者制度の導入により、民間業者のノウハウを活用した更なるサービス向上を図るため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況		補正			現年分
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市指定文化財のき損、滅失することのないよう所有者・管理者と連携を図りながら適正な管理をする。また、新指定文化財の周知を図ると共に新たな指定物件の検討を行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	市指定文化財、登録有形文化財、その他市内の保存すべき文化財について、所有者と連携しながら適切な管理を行う。埋蔵文化財に関しては、窓口対応から発掘調査の実施まで、迅速かつ遺漏のないように対応していく。
②①に基づく取り組み結果	市内に所在する文化財建造物5件に対し、国登録有形文化財(建造物)に登録すべく、所有者、県、国と調整を行った。また、市内の野馬土手や市指定文化財について、状況の確認、必要に応じて清掃活動を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図(対象をどうするのか)	現状保存を目指す。不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う。
②事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財(遺跡)の保存策を講じる必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	市指定文化財30点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。埋蔵文化財確認のあった56件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する6件の確認調査を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	発掘調査件数	10	8	6	件	業務取得
	ii	発掘調査面積	6,286	920	388	m <sup>2</sup>	業務取得
	iii	埋蔵文化財窓口確認数	741	796	802	件	業務所得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	3,895	6,762	金額(千円)	内容	5,241		
国支出金(千円)	1,102	1,806	300	指定文化財報償	1,127		
県支出金(千円)	276	451	4,903	賃金	225		
市債その他(千円)	0		935	市内遺跡測量委託			
一般財源(千円)	2,517	4,505			3,889		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	埋蔵文化財保護事業は現状保存を目指しているが、開発を伴うため発掘調査等による記録保存を行うことが多い。文化財を未来に伝えていくための保護業務が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	埋蔵文化財保護事業は行政の責務であり、各種開発が本市でも行われていることから、継続して実施する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30→R1繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続きワークショップを実施し、芸術・文化活動への参加者の増加を図る。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	芸術文化事業を引き続き実施し、市民に芸術文化活動への参加機会や芸術文化にふれる機会を提供する。
②①に基づく取組み結果	ワークショップを実施し、芸術文化に興味を持ってもらうきっかけを提供した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図(対象をどうするのか)	芸術文化に興味・関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業(市民文化祭、美術展覧会、芸術鑑賞教室等)を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	行政が提供する事業を鑑賞するという受身的な意識から「行政とともに事業を作り、運営する」という協働型の事業展開を望む市民(団体)の増加が予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	市民文化祭、芸術鑑賞教室(能楽・歌舞伎・文楽・美術)、市内団体との共催による芸術祭の実施。美術展覧会は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止。				
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i 芸術鑑賞教室応募者数	441	466	373人	業務取得
	ii 市芸術文化事業参加・発表者数	1353	1394	1021人	業務取得
	iii 市芸術文化事業来場者数	9158	9464	7511人	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算
事業費(千円)	1,876	1,965	金額(千円)	内容	2,220
国支出金(千円)			1,327	非常勤職員賃金	
県支出金(千円)			26	芸術鑑賞教室	
市債その他(千円)			300	市民文化祭負担金	
一般財源(千円)	1,876	1,965	310	市展負担金・芸術文化団体補助金	2,220

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	若い世代をはじめとした多くの市民が参加できる機会や、来場するきっかけを作っていくことが課題となる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	芸術文化活動への参加機会及び鑑賞機会の提供は地域の芸術・文化意識の向上に必要であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H30→R1繰越		
③達成状況	0	補正		現年分
		流用・充当		
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	史跡地の更なる周知の視野を広げることを目指して、事業展開していくこと、また、財政状況を見極めた上での活用のための史跡整備事業の実施の検討は必要である。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	引き続き国史跡を定期的に巡視し、適正な管理を行う。周知普及イベントにおける参加者の増加を図ると共に、幅広い年代に史跡へ興味を持ってもらえるようイベントの内容を工夫する。
②①に基づく取組み結果	周知イベントを通じて、市内外に史跡の重要性を伝えた。また、史跡内の清掃管理、台風被害の樹木伐採を行い、適正管理に努めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡 捕込・野馬土手	意図(対象をどうするのか)	市民に親しまれる史跡をめざし、周知及び清掃。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および保存管理を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、事業実施時などに整備を望む声が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	周知イベントを通じて、市内外に史跡の重要性を伝えた。史跡を定期的に巡視し、必要に応じて清掃管理を行った。また、台風被害が大きく、倒木や隣地に接する危険な樹木の伐採を行い、史跡の適正管理に努めた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	国史跡取得面積	6,332	6,332	6,332	m <sup>2</sup>	
	ii	周知普及事業参加者	2704	3421	5381	人	
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	2,477	5,728	金額(千円)		内容		2,980
国支出金(千円)			497		高木伐採剪定業務委託		
県支出金(千円)			2,000		実行委員会負担		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,477	5,728					2,980

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	史跡の更なる周知を目指して、事業展開をしていく。史跡指定によって保護されているが、捕込を適切に保存していくために、財政状況を見極めた上で、史跡整備の検討が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	史跡地を保存活用し、周知普及事業の実施や、清掃管理を行い、史跡に対する市民意識の醸成を図ることが必要となるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	史跡清掃管理・周知普及活用事業	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	史跡清掃管理・周知普及活用事業を実施した	2,800	5,728	当初	2,800	5,728	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	2,928		
令和2年度への繰越額(単位:千円)							0

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	埋蔵文化財緊急調査事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	基礎整理作業の後、出土資料の図化業務、写真撮影等を行い報告書作成のための図版、原稿作成を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	分類・接合作業の進んだ出土遺物の復元作業を実施し、状態の良い資料の図化作業、写真撮影、図版作成、原稿執筆を行い、発掘調査報告書を刊行する。
②①に基づく取組み結果	基礎整理作業の終了した遺物の分類・接合・復元作業を行った。また、資料の一部の実測作業を委託し、図化作業を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一本松遺跡	意図(対象をどうするのか)	調査成果をまとめて、発掘調査報告書を刊行する
②事務事業の概要	平成28年度に本調査を実施した一本松遺跡の出土資料を整理、分析し、発掘調査報告書を刊行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	現地説明会を実施したところ、100名を超える見学者があったが、後から情報を知った市民から、見学要望が相次いだため、再度説明会を開催したところ、100名近い見学者があり、地元の遺跡や歴史に対する関心は高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	基礎整理作業の終了した遺物の分類・接合作業を行い、状態の良いものは復元作業を行った。また、資料の一部の実測作業を委託し、土器32点、石器50点の図化作業を実施した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i 従事作業員数	990	933	477人	業務取得
	ii 分類検討コンテナ数			180箱	業務所得
	iii 委託遺物数量			82点	業務所得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算
事業費(千円)	3,912	5,864	金額(千円)	内容	4,368
国支出金(千円)	1,938	2,758	2,671	非常勤職員賃金	2,109
県支出金(千円)	484	690	58	消耗品費	422
市債その他(千円)	0		3,135	出土遺物実測委託	
一般財源(千円)	1,490	2,416			1,837

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	分類・接合が終了した遺物の復元作業、出土資料の図化作業、写真撮影等を行い、報告書作成のための図版、原稿作成を行う。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	整理作業の進捗によって、遺物の復元、図化の委託、図版作成、原稿執筆作業を実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	出土資料の整理作業及び分析	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	出土資料の整理作業及び分析を行った。	6,232	5,880	当初	6,232	5,864	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分 5,864
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-352		
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化財保管スペース整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	埋蔵文化財や、古文書・民具などの文化財を保管する郷土資料館・倉庫・学校の教室などのスペースが飽和状態となり、文化財の保管場所確保が急務である。	③令和2年度に取組む改革・改善内容
②①に基づく取組み結果	郷土資料館隣地の店舗跡を取得し、文化財保管スペースとして整備を行った。	

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	埋蔵文化財、民俗文化財等	意図(対象をどうするのか)	文化財を適切に保存する。
②事務事業の概要	文化財資料を保存し、適切に管理し、あわせて国民共有の財産として広く公開・活用するための準備スペースとして、土地・建物を取得し、文化財保管スペースとして整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財(遺跡)の保存策を講じる必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	郷土資料館隣接地の店舗跡を取得し、文化財保管スペースとして整備を行った。1階は主に埋蔵文化財を保管し、2階は主に民具を保管する予定である。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	埋蔵文化財出土遺物累計数	4,209	4,239	4,245	箱 業務取得
	ii	郷土資料館寄贈資料点数	2,382	3,193	4,457	点 業務取得
	iii	文化財保管場所	6	6	7	箇所 業務所得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	0	42,242	金額(千円) 内容		0	
	国支出金(千円)		825 用地測量委託			
	県支出金(千円)		305 不動産鑑定委託			
	市債その他(千円)		40,096 用地購入費			
	一般財源(千円)	42,242				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	飽和状態であった文化財保管スペースを取得することができた。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	目的であった文化財保管スペースを取得できたため、事業は終了となった。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	文化財保管スペースを取得する。	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	文化財保管スペースを取得することができた。	45,082	45,042	当初	45,082	42,242	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-40		42,242
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	三石 宏			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	資料整理を継続して実施するとともに、資料化を図ったものが活用できるよう、環境の整備を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	資料の収集・整理・保管の環境を整え、資料活用により、地域の歴史に興味を持つ利用者の増加につなげる。
②①に基づく取組み結果	郷土資料(歴史資料と民俗資料)の収集・整理(データ化、リスト作成)を進めるとともに、ミニ展示、収蔵資料展示、講座・教室への活用、レファレンスを行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡を辿り、その生活など知ることで、ふるさと意識の醸成をはかる。
②事務事業の概要	郷土の歴史・民俗等に係る資料を収集・調査・研究・整理するとともに資料展示及び各種講座、教室等を開催する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	3月からの臨時休館や年度末のミニ展示の中止があるものの、来館者数が、大幅に減少している。しかし、年間を通じて講座等は一定の参加者数があることから、引き続き歴史や文化財への興味・関心は高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	(1)郷土資料の調査・収集・整理 (2)常設展示 (3)ミニ展示・新発見資料展 (4)講座・教室 (5)講師派遣						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	常設展示来館者数	5481	4209	3497	人	業務取得
	ii	展示事業実施回数	3	3	2	回	業務取得
	iii	教育・普及事業実施回数	53	47	43	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	9,497	12,534	金額(千円)		内容	12,059	
	国支出金(千円)		4,818		非常勤職員賃金		
	県支出金(千円)		778		文化財くん蒸委託		
	市債その他(千円)		2,151		空調機改修工事		
	一般財源(千円)						

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	収集した資料の整理作業を進め、その周知機会である展示や講座等の事業で活用し、多くの方々に興味を持ってもらう。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	1低い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	ふるさと意識の醸成をはかるために、資料の収集・整理の推進と、展示や講座等の事業に、まず興味を持ってもらうための工夫が必要なため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H30⇒R1繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)			